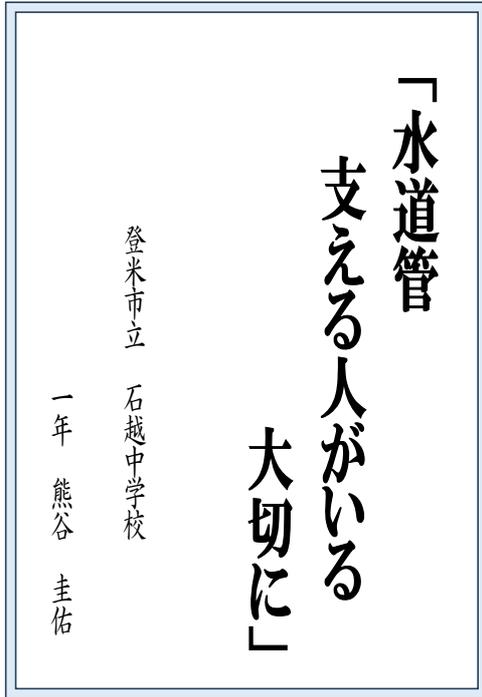
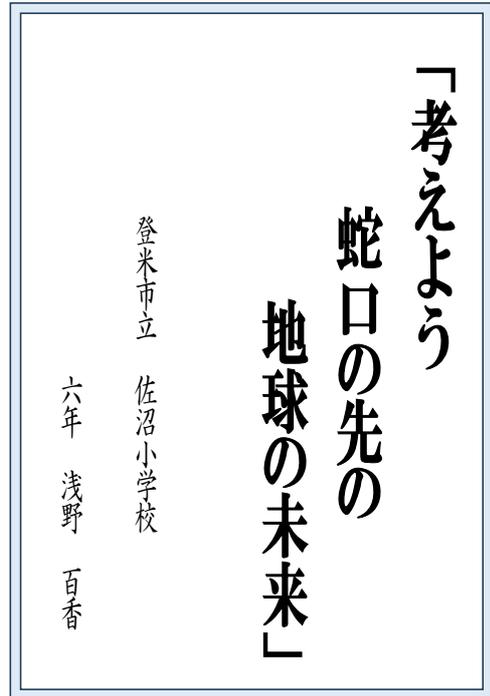


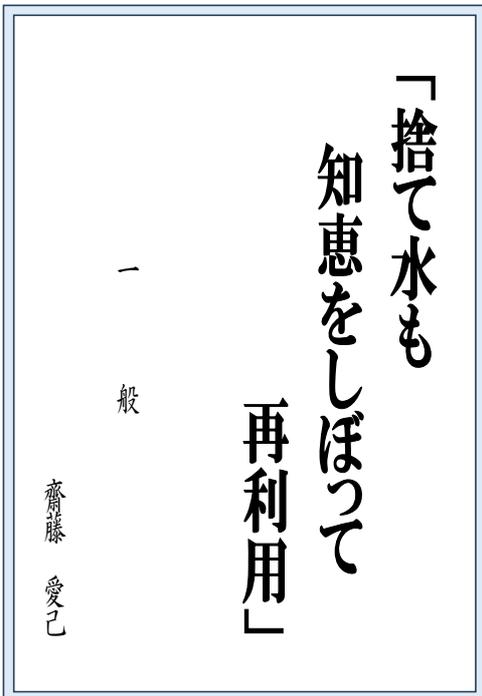
【標語の部】



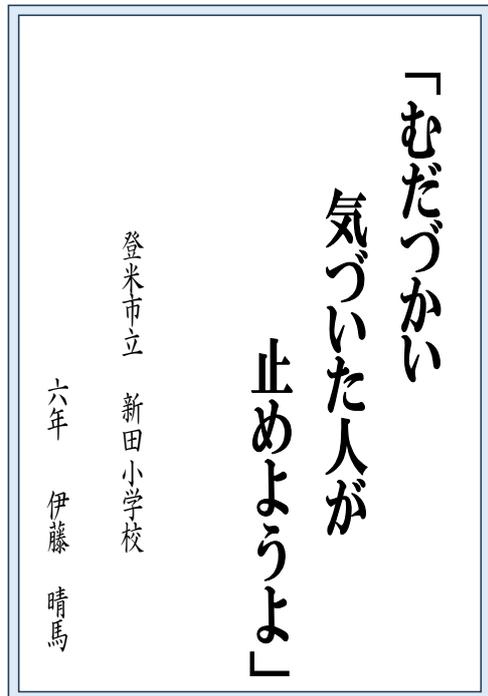
【特選】石越中学校1年 熊谷 圭佑



【入選】佐沼小学校6年 浅野 百香



【入選】齋藤 愛己



【入選】新田小学校6年 伊藤 晴馬

【作文小学生低学年の部】

【特選】佐沼小学校3年 菊地 芽愛

No. 2

No. 1

水のそんざい
 登米市立佐沼小学校 三年 菊地 芽愛
 人間、動物、植物などいろいろ所で、水
 が使われています。
 水は、どんな場所でも使われているか考えま
 した。たとえば、りう理をするには、にた
 り、やいたり、むしたりするときに水を使
 います。のり物は、夏のあついに麦茶を作
 ります。麦茶を作るときにも水を使っています。
 ほかに、花や、野さいを育てるときに水が
 ひつようです。
 生活している中にも水をひつようとし
 るものかたくさんあります。
 たとえば、お風呂に入るには、たくさん
 水がひつようです。シャワーは、身体や頭を
 あらうながすのに水がひつようです。次に、
 よごれた物をキレイにするにも水がひつよう
 水がひつようです。次に、人間の身体には、
 パーセントから70パーセントが水でできて
 います。1日に2リットルの水とよほどい

B4 (20×20) こだま原稿用紙は再生紙を使用しております。

No. 4

No. 3

ています。動物や、植物も同じで水で身体が
 できています。
 ほかにたくさん水の場所がいろいろも
 ります。たとえば、みずうみ、川、たき、海
 などがあります。
 あたしは、家のたちで花と野さいを育てて
 います。家のにわの花と野さいは、自分で水
 をあげないと生きないけれど、自然の花
 は野さいは生き物は、雨から、水をもらって
 生きています。
 空から雨がふって植物や生き物が生きてい
 ます。
 この間、いとこといっしょにヨーロッパに
 行きました。ヨーロッパの、いろいろな動物
 にふれあひ、動物に、えさをあげました。そ
 のえさは、キバツとにんじんでした。動物
 のえさになつて、いる野さいも水が使われて
 います。
 水のかわり、いろいろなことに使われて
 いるんだな。水のかわり、動物や人間、植物

B4 (20×20) こだま原稿用紙は再生紙を使用しております。

にぞいふいろなものの水がひつようなんだな。
やはり「水の力」は強いんだなと思ひまし
た。

水のそんざいは、あたしたち人間と動物・
植物にとつて「いのち」と同じくらい大切な
そんざいです。

水は生きるためにひつようなもののなめて大
切に使いたいです。そして水の大切さをたく
さんの人にしつてもらいたいです。

いとこは、なるべくシバローを止めることを常に心がけて、毎日生活をしていきます。それは、家だけでなく、学校やお店などでトイレなどをしたときも家と同じように、水を出しっぱなしにしないようにしています。

それを日本中のみんなが心がける事で、水を節約できると思います。また、水の大切さが改めて分ったので、周りの人たちにも伝えていきたいと思います。

B4 (20×20) こだま原稿用紙は再生紙を使用しております。

【入選】米川小学校4年 高橋 篤弘

2

1

お水があと助か、た

登米市立米川小学校 四年 高橋 篤弘

今日、ぼくは、水が命と同じくらい大事なと知りました。

ぼくは野球部に入っていて、し合が始まりのころわづかだ、た水とうを全て飲みほしてしまいました。十五分ぐらいたちました。ぼくはのどがかわいてしまいました。今ぼくの心の中は、
（水が飲みたいなあ）

でした。

し合はだいたいも十分。今はまだ二十五分くらいしかたっていないので、でももう、ぼくののどはカラカラでした。

「ピーッ

と、し合終わりのコールが鳴ったとき、ぼくの心は、

「や」と水が飲める。」

という気持ちになりました。

し合が終わった後は、きりうけいの時間だ、

近くの水道のじり口をひねりました。でも、その水道はこわれているようでした。ぼくは水道をさがし、五分くらい歩きました。が、とちがう水道を見つけて、じり口をひねりました。そして水が出ました。いつも家ご当たり前のように水を飲んでいたので、初めてへ水があつて助かったあつと感じました。

家でたくさん水が飲めるのは、当たり前ではないことを知りました。これからは、毎日

水に感じながら、飲もうと思いましたが、毎日、コップ二はい分ほしか水を飲んでいなかったのです。これからは毎日ニリットルほど飲もうと思えました。今は、なるべく水をあだづかいしないで上に気をつけています。

その水道の水を出せたのは、水道局のおかげだと思いました。水道局がなくなるとしたら、何人もの命がなくなると感じました。ぼくがひねったじり口が出なかつたら、ぼくの命はもうなくなつてしまつてい

たと思いました。たつ、水とこの水はコップに入つた水を飲めるのは、上下水道部のおかげだと思いました。水道の水が出てくることに、ありがとうございました。

カラカコだ、たぼくののどをうるおしてくれたのは、水でした。一てき一てき、命と同じくらいのかちがあるということも知りました。これからは、水を大事に生きていこうと感じました。